

おかみさん

新春トーフ



鈴木さんにお伺いします。先ほども少し触れましたが、大谷海水浴場の復活に向けて、もう少し思いを聞かせてください。

鈴木 観光客に来てもらうのはもちろんですが、子供たちに海で遊んでもらいたいと思っていきます。「大谷に住んでいるながら大谷の海に行ったことがない」という子供たちがあまりにも多く、残念でなりません。

大谷海岸は、大谷の人たちにとっては特別の場所です。私たちの世代には学校の授業に「海学校」



おじいちゃん、おばあちゃんからは「大谷海岸でデートしたもんだ」という自慢話もよく聞きました。子供から大人まで大切な場所なんですよね。

散歩にも絶好の場所です。地域の人たちのふれあいの場になればいいと思います。コンサートをしたとか、砂浜でヨガをする「海ヨ

ガ」をしたいという人もいます。ユーチューブなどの動画でPRしたら、全国からたくさんの方が来ると思います。

遠藤さんにお聞きします。昨年7月から9月まで、牡鹿半島を中心にリボンアートフェスティバルが開かれました。全国から26万人が訪れたそうですね。

遠藤 アートや音楽、食を楽しむ総合フェスティバルとして昨年7月22日から51日間、開催されました。多くの人に足を運んでいただき、復興に進む石巻のPRになりました。



当ホテルは普段、年配の方々の利用が多いのですが、期間

中は若い客層に利用されました。

ホテルの屋上に、歌をうたつて金華山に奉納する「青空カラオケ」というユニークな企画を設けてもらい、グラウンドゴルフ場の一角には、フランス人作家による小さな噴水が設置され、周辺を彩りました。

「おしか御番所公園」に展示された草間彌生さんの作品がメディアに取り上げられ、これを目当てに多くの人が訪れました。アートの集客力のすごさを実感しました。

これからの復興のまちづくりにも、大いに参考になりました。

阿部 イベントに当たっては、地元との協議も随分行われたのでしょね。

ランティアの若者などで組織をつくり、実行委員長の小林武史さん(音楽プロデューサー)が加わって念入りに打ち合わせをしました。とても貴重な経験になったはずです。

阿部 とても素晴らしい企画だったのですね。当ホテルの従業員を会場に足を運ばせました。最初は渋々だったのですが、興味はなかつたが、興味はなかつたが、興味も関心を示し、時間を忘れて各会場を見て回ったそうです。継続されることを望みます。

イベントはお世話をする人がいないと



進みませんし、継続するには大変な苦勞があります。今回のアートイベントをきっかけに、石巻地域の受け入れ態勢が整ってきていることは、素晴らしいことだと思います。

遠藤 牡鹿半島は交通アクセスが悪いので、当ホテルのバスを提供しました。鮎川からホテルまでのルートを周遊するものですが、運転手

◆出席者◆

- 鈴木 緑さん (はまなす海洋館)
- 阿部 憲子さん (南三陸ホテル観洋)
- 遠藤 和子さん (ホテルニューさか井)
- 高橋 知子さん (篝火(かがりび)の湯緑水亭)

三陸新報社編集局次長 玉谷誠一